

☆アメリカ合衆国での「命のための行進」に対する教皇の支持☆

Zenit – Roma : 2017年1月28日

教皇フランシスコは、合衆国の首都で今週の金曜日（1月27日）に行われた命のための行進に応援のメッセージを送った。それは、合衆国の教皇大使クリストフ・ピエール司教に宛てたもので、ヴァチカン国務省長官ピエトロ・パロリン枢機卿が署名している。その中で教皇は人の命が受精の瞬間から神聖なものであることを強調した。

「人の命の価値はあまりにも高く、また母の胎内で育つ胎児の生きる権利は譲ることのできないものですから、胎児の生死を決定する権利を、母親の体への権利として示すことはどんなことがあっても認められません。人の命はそれ自体が目的であって、他の人間の支配の対象とは決してなり得ません」とその文書は言う。

また教皇は「多くの男女のアメリカ市民が、私たちの兄弟姉妹の中で最も無抵抗な人たちの命を守るために立ち上げたこのイベントが、生きる権利の擁護について人々の関心を引き起こし、適切な政治的保護を保証するために貢献することができると信じています」と励ました。

墮胎反対の行進はこの金曜日にワシントンで行われた。それは44回目であったが、今までにない大勢の人々が行進し、また副大統領マイク・ペンスもその列に加わった。



☆教皇、フランスでの命の行進に「命の文明を築くため休みなく働きましょう」☆

Zenit- Roma : 2017年1月20日

教皇フランシスコは、1月22日の日曜日にパリで行われることになっている「命のための行進」に参加する人々に「命の文明を築くため休みなく働こう」と励ました。フランス駐在のヴァチカン大使ルイジ・ヴェントゥーラ司教を通じて、「命の行進」のリーダーに送った手紙の中で、教皇は「この行進の参加者に心から挨拶を送ります」と激励した。

また教皇は、「教会はいつも命の弁護人であり続けねばならないし、人間の命は受精の瞬間から自然の死に至るまでの間、無条件に守られねばならないことを公に主張することを放棄してはならない」と教えた。

一方、ヴェントゥーラ司教は、「教皇は、人間の命の擁護のためにする合法的なデモ行進で満足するのではなく、この行進の参加者が愛の文明と命の文化を築くために休むことなく働くように励まされた」と明かす。

この行進は11回目のもので、命を守る運動に関与する諸団体を集め、フランスカトリック家族協会全国連合によって支えられている。

